

令和3年度「伊平屋村学力向上推進委員会」実践発表会

「島発ち発表会」



第7号

教育委員会

たより



文責
伊平屋村
教育委員会
松田 哲市



島発ち発表会テーマ

「高めよう 自分の可能性を! 広げよう 自分の世界を」

令和三年十二月三日(土) 離島振興総合センターにて「島発ち」を見据えた教育実践の成果を発表する「島発ち発表会」が開催された。発表会は、「伝統文化学習の日」の三線や太鼓教室で稽古してきた児童・生徒はじめ、島発ちした高校生、講師らによる華やかなオープニングで幕が開けた。

実践発表会では教育委員会・学校部会・家庭地域部会のこれまでの実践や各学校の校内研等の取り組みについての報告があった。

「私の島発ち後の体験」では、南風原高校二年(譜久村緒於奈さん)、陽明高校二年(瀬良垣彩さん)、首里東高校二年(宮城 愛さん)が発表会に参加した小学校五年生から中学三年生の後輩たちに「島発ち」を見据え、目標を定め、努力することや高校選びの大切さ、高校生活等について語って頂いた。先輩の言葉を真剣な表情で受けとめる児童・生徒の姿が見られた。

社団法人麻布教育研究所の村瀬公胤氏より「島発ちの意義 これからの資質・能力と教育の姿」の演題で講話があった。「島発ちの意義」や「村瀬氏自身の十五歳でのイギリス留学の体験談」、「伊平屋の子どもたちに願うこと」等、小学校五年生から教職員、保護者等、幅広いの年齢層すべての方に分かりやすく、心に響く内容であった。講話では、小中学生へ問いかけながら、「島発ち」を考えさせる場面や課題を出題し、解かせる場面等の工夫も見られた。

講演終了後も参加者から「もっと聞きたかった」との声が多くあった。



講師：村瀬公胤氏

講話(村瀬氏)のスライドの一部より
「島発ちの意義」

- ・慣れ親しんだコミュニティーを慣れ、自ら学びをきり開く
- ・「不安」と「挑戦」がもたらすもの
 - ・選択を迫られる=選択主体が育つチャンス
 - ・本島でさえも、異文化への飛び込み=差異に気づき、本質を理解する。学び
- ・島があること
 - ・Home(心の居場所)、学びの規準

講話(村瀬氏)のスライドの一部より
「伊平屋の子どもたちに願うこと」

- ・「違う」で避けない。
 - ・違うから話せない。
 - ・違うから住めない。
 - ・違うから分からない。
- ・「同じ」で避けない。
 - ・同じだから言わなくてもいい。
 - ・同じだから分かってくれるはず。
 - ・同じだから考えなくてもいい。



オープニングの様子